

山鹿市民医療センター開放型病院広報紙

12月号

Yamaga Medical Center



発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420

第26回熊本県国保地域医療学会で研究発表しました

令和4年10月22日(土) 熊本県国保地域医療学会が開催されました。

昨年の研究発表優秀者5名のうち、当センターの看護師2名が表彰されました。

【エビデンスを理解した術前処置】を発表した宮本智子さんは「新人看護師の不安を少しでも取り除くための研究を発表し優秀賞を頂き光栄です。今後も研修を継続していきたい。」と、後輩育成に取り組まれています。

【救急外来での発熱患者受け入れ体制の整備】を発表した救急看護認定看護師の川口文香さんは「救急外来での実践報告を発表しました。

発熱患者対応をする中で疑問や不安、混乱が生じ感染対策の統一が困難な状況に対しスタッフや他部門と協働したことが評価され大変光栄です。」と、救急外来で活躍されています。



今年の学会テーマは『Withコロナ時代の地域包括医療・ケア』であり、現地開催及びオンライン開催併用のハイブリッド形式で行われました。『看護、臨床(診療)、保健事業・チーム医療、検査・リハビリ、施設、新型コロナ感染症』の6つの領域に分かれて27題の発表があり、別府事業管理者が座長として参加され、当センターから3名の看護師が発表を行いました。



外来看護師の中川加奈さ

んは【A病院における外来看護師の対応の評価～外来患者への質問紙調査から～】の演題で発表しました。「全体の中で1番目の発表でしたので緊張しましたが、2年間の取り組みを院外で発表することができて貴重な体験となりました。他施設の発表から地域中核病院としての取り組みを知る機会となり、今回の学びを今後の看護実践に活かしたいと思います。」

救急看護認定看護師の川口文香さんは【感染症流行下における一次救命処置(BLS)研修の継続】の演題で発表しました。「研修方法を大幅に変更せざるを得ない中で、アンケート結果を基に検討し研修継続したことの報告でした。今学会の参加施設は、当院と同規模であり他施設の様々な取り組みを知ることで刺激になりました。」

地域健診室保健師の鹿子木光葉さんは【A病院における研究倫理教育の体制づくりに向けて～研究委員部会での研究倫理に関する研修～】の演題で発表しました。

「倫理審査の重要性を支持して頂き、今後の活動に意欲を得る機会となりました。また、異なる地域の病院で他職種が協働されている発表を知ることができ、様々な工夫を共有し合える場となりました。今後は、当院もより多くの職種で学会に参加し地域医療の充実を検討していきたいと感じました。」



発表参加者をはじめ、聴講参加者にとっても今学会の発表は、他職種それぞれの役割発揮や協働の取り組みを知る機会となりました。今後各職種で医療人として考え、患者中心の医療の提供に活かしていきたいと思ひます。

(文責：看護部副看護部長 原田 靖代)

基本理念

いのち

地域住民の生命と健康への貢献

基本方針

山鹿市民医療センターは

- ① 患者さま中心の信頼される医療を行います
- ② 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します
- ③ 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します
- ④ 研修、研鑽に努め医療レベルの向上を図ります
- ⑤ 健全経営に努めます

CONTENTS

第26回熊本県国保地域医療学会 P 1

緩和ケア研究会が開催されました..... P 2

新興感染症の発生等を想定した訓練を開催... P 2

医療最前線..... P 3

第50回公開特別講演会のご案内 P 3

外来担当医表 (11月) P 4

鹿本地域緩和ケア研究会が開催されました

鹿本地域において緩和医療の充実を目的に、平成19年に鹿本地域緩和ケア研究会を立ち上げ、これまで年2回（5月・11月）の研究会を開催してきました。近年は、新型コロナウイルス感染症の流行により中止していましたが、今年度は10月5日に鹿本市民センター【ひだまり】大会議室において3年ぶりに開催することができました。特別講演の講師に江津湖クリニック院長の武井宣之先生をお迎えし『せん妄の基本的な考え方』についてお話ししていただき、鹿本地域の医療機関・薬剤師会・訪問看護などから多数の参加をいただきました。

せん妄は、器質的な中枢神経系の脆弱性（準備因子）があるところに、環境的（誘発因子）・身体的（直接因子）な負荷が加わり、脳が機能的に破綻（意識障害）した状態であり、準備因子と誘発因子、直接因子とのバランスで起こるとのことでした。鹿本地域は高齢者が多く、



寝たきりや治療のために安静臥床が必要な患者が多く入院されています。入院による環境の変化や疼痛などによる不眠など、せん妄の発症を誘発する因子が多数存在していることを改めて学びました。せん妄は一度発症してしまうと対症療法しかないので、まずは予防が大切だということ。せん妄を発症しやすいハイリスク状態であるのか。せん妄そのものの原因となる疾患や薬剤性の因子があるのかを確認する必要があり、せん妄を発症しやすい薬剤の中止など多職種と連携した介入が必要であることなど、今後の臨床現場で大いに活かせる講義をしていただき、学びの多い研究会となりました。

来年度以降も感染対策を行いながら緩和ケア研究会を開催し、鹿本地域の緩和医療の充実を図っていきけるよう活動していきたいと思っております。今年度の開催にあたりご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。

（文責：緩和ケアチーム 大坪 美香）



令和4年度 新興感染症の発生等を想定した訓練を開催しました

10月18日（火）16時から山鹿中央病院発熱外来において、感染対策向上加算届出施設の4医療機関と外来感染対策向上加算届出施設の11医療機関、山鹿保健所、鹿本医師会と合同で訓練を実施しました。

今回は、山鹿中央病院院長 原先生をはじめ職員の方々に発熱患者2症例の対応デモンストレーションを行

っていただきました。症例1は、事前電話連絡があった発熱患者の対応について、症例2は、高病原性鳥インフルエンザ流行国への渡航歴がある発熱患者の対応について、途中質疑応答を交えながら行いました。

症例2の後半では、鳥インフルエンザの疑いがあり、保健所へ連絡するシナリオで行いました。山鹿保健所小山所長より検査・発熱、感染対策まで、わかりやすく説明していただきました。

今後も地域の感染対策の向上と標準化への支援を通して、地域住民の生命（いのち）と健康と医療従事者の安全確保へ貢献できるよう努めたいと考えておりますので、引き続き感染防止対策向上のための地域連携にご協力いただきますようお願い申し上げます。

感染予防策に関するご質問等がございましたら、山鹿市民医療センター感染制御室までご連絡をお願いいたします。

（文責：感染制御室 副看護師長 廣瀬憲一）



医療最前線 (144)



慢性心不全の薬物療法(新しい薬)について

副院長
循環器内科医師
大庭 圭介

慢性心不全の薬物療法は、数十年で大きな進歩を遂げましたが、現在も新しい治療薬が登場しています。

50年前は利尿薬と強心薬ジギタリス程度でしたが1980年代にアンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬とβ遮断薬の有用性が示され、2005年頃にアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB)も登場しました。

2010年のガイドラインでは、重症度に応じた薬物療法が示されました。無症候性→軽症→中等症→重症→難治性となるにつれ、ACE阻害薬→ARB→β遮断薬→利尿薬・ジギタリス→経口強心薬→抗アルドステロン薬(MRA ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬：スピロノラクトンやエプレレノン)→注射を順次使用しましょう。という内容です。ACE阻害薬とARBの併用は好まれません。他は基本的に併用します。薬が段々多くなるため、併用療法を正しく理解して頂くことは患者さまにとって重要です。

新しい薬剤というのは、ARNIとSGLT2阻害薬です。ARNI(アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬：サクビトリルバルサルタン)は、2014年に報告

されたPARADIGM-HF試験で、ACE阻害薬エナラプリルを上回る予後改善効果が示されました。ACE阻害薬またはARBから切り替えて開始しますが、一日程度を空ける必要がありやや煩雑です。

SGLT2阻害薬は御存じの通り、2014年から国内承認された、糖を腎臓より排出する糖尿病治療薬です。心不全の改善効果は、多面的な薬効によります。2015年に報告されたEMPA-REGOUTCOME試験で心血管イベントの抑制が示され、2019年以降は非糖尿病患者にも予後改善効果が示されました。

これらは基本3剤(ACE阻害薬/ARB+β遮断薬/MRA)に上乗せします。ただし現在のところ、これらの有効性は左室機能が40%未満に低下した収縮不全心不全にのみ示されているため、保険適応となるのはまだ慢性心不全の一部の症例で、レセプト上は理由書が求められることが多いようです。

一般の診療では、心不全かどうかで迷うケースが多いと思います。一つの目安として、BNPが100~200以上(NTproBNPなら400~900以上)は専門医による介入を。とされています。心不全を疑う症例がございましたら、いつでも当科を受診させてください。

第50回公開特別講演会のご案内

(日本医師会生涯教育講座1単位)

取得カリキュラムコード 番号・コード名
65.排尿障害(尿失禁・排尿困難)

下記により第50回公開特別講演会を開催いたします。
多数ご参加くださいますよう御案内申し上げます。

鹿本医師会会長 幸村 克典
山鹿市病院事業管理者 別府 透

記

日時：令和4年12月16日(金) 19:00~
形式：ハイブリッド方式(オンライン参加or会場参加)
会場：オンライン参加 / Zoom ミーティング
会場参加 / 山鹿市民医療センター1階医療研修センター
演題：「進化を続ける泌尿器癌薬物療法」
司会：山鹿市民医療センター 病院事業管理者 別府 透 先生
演者：熊本大学大学院 生命科学研究部 泌尿器科学講座 神波 大己 教授
参加費：無料

【参加要領】 下記参加URL、又は参加QRコードから御参加ください。

(参加URL) : <https://zoom.us/j/92749907028>
(参加QRコード)



ミーティング ID : 927 4990 7028
パスコード : 301253

※ミーティングに参加される際の【名前】欄には、必ず「氏名」と「医療機関名」を御入力ください。
※快適に御視聴いただくため、イヤホンやヘッドセットの御使用をお勧めいたします。

お問合わせ先 📍 山鹿市民医療センター
地域医療連携室 宮園、深水
TEL:0968-44-2185(内線769) FAX:0968-44-0071

※共催：鹿本医師会
山鹿市民医療センター医療研修センター運営委員会

外来担当医表

12月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※御任 玲美	※猪山 慎治	※後藤 英介	—	※後藤 英介
腫瘍内科	—	—	—	—	宮本 英明
消化器内科	上野 茂紀 (本原 利彦)	富口 純	本原 利彦	富口 純 (上野 茂紀)	本原 利彦
内分泌・代謝内科	川崎 修二	—	川崎 修二	—	川崎 修二
循環器内科	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博	清水 博 大庭 圭介	※小國 哲也 担当医 (予約のみ)	大庭 圭介 清水 博
整形外科 (紹介外来制)	高木 茂 横田 秀峰 山元雅典/中原達秀	工藤 智志 山元 雅典 中原 達秀	手術 (担当医)	高木 茂 工藤 智志 横田 秀峰	手術 (担当医)
外科	別府 透 石河 隆敏 織田 枝里	手術 (担当医)	別府 透 石河 隆敏 (織田 枝里)	手術 (担当医)	別府 透 石河 隆敏 山村 謙介
乳腺外科	—	※富口 麻衣	—	—	—
泌尿器科	—	非常勤医師	—	※非常勤医師 神波 大己 教授 (第1・3・5)	—
小児科	※石井 真美 9:00~16:30まで	※徳永 郁香 (小児一般・ アレルギー外来)	※石井 真美 9:00~16:30まで 予防接種(午後)	※石井 真美	※徳永 郁香 (小児一般・ アレルギー外来)
セ ン タ ー 感 覚 器	耳鼻咽喉科	—	非常勤医師	非常勤医師	—
	眼科	木山 優	木山 優	木山 優	木山 優
産婦人科	※片淵美和子 (午後)	※片淵美和子 (午後)	—	非常勤医師 *片淵美和子(午後)	非常勤医師
緩和ケア内科(予約制)	織田 枝里	堀 和樹	織田 枝里	堀 和樹	—
総合診療科	吉岡 明子	—	吉岡 明子	—	吉岡 明子
救急外来	外科医(午前) 整形外科医(午後)	吉岡 明子	大庭 圭介(午前) 清水 博(午後)	吉岡 明子 消化器内科医	外科医(午前) 担当医(午後)
健診	坂田 和子 石河 隆敏	川崎 修二	堀 和樹	—	佐々木 剛

◎診療時間は8:30開始で11:00(小児科は16:00)受付終了となります。
 当日の受診に関する相談を除く電話は、14時から17時が受付となります。
 ※ 非常勤医師です。 * 第2、第4のみ診療となります。

特殊・専門外来

12月

名称	担当医等	実施日	診察場所
外来化学療法(予約制)	担当医 宮本 英明	毎週 火曜・水曜 毎週 金曜 (がん薬物療法専門医)	各診療科
禁煙外来(予約制)	坂田 和子	毎週 月曜 (午後)	Aブロック
睡眠時無呼吸外来	坂田 和子	毎週 火曜・木曜 (午後)	
小児科予防接種	※石井 真美	毎週 水曜 (受付時間13:30~15:30)	
ストーマ外来	担当医	毎月 第3水曜 (午後)	Bブロック
女性外来(婦人科、思春期、更年期)	※片淵美和子	12/5(月)、6(火)、8(木)、12(月)、19(月)、20(火)、22(木)、26(月)、27(火)	
PEG外来	担当医	毎月 第2水曜 (午後)	
両親学級(予約制:産婦人科)	助産師	第2・第4木曜日 (13:30~15:30) ※産婦人科へお尋ねください。	5階病棟
セカンドオピニオン外来(予約)	各専門医が担当します。詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎特殊・専門外来については、各診療科にお尋ねください。
 ◎急患の場合は、この限りではありません。
 ご注意：学会等の都合で変更になる場合があります。
 ◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

山鹿市民医療センター

〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地
 TEL(代表)0968-44-2185 FAX 0968-44-2420
<http://yamaga-medical-center.jp>